

東京バッハ合唱団 月報

[第 646 号] 2016 年 4 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101
Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3- 47604
Mail: office@bachchor-tokyo.jp http://bachchor-tokyo.jp/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No. 646

April 2016

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

カンタータ第 140 番《目覚めよと呼ばわる ものみの声高し》

——主を迎える 10 人の乙女の話——

大村 恵美子 (主宰者)

バッハのカンタータの中でも、第 1 番《あしたに輝く妙なる星よ》と並んで双璧をなす、この第 140 番カンタータは、抜群の人気を得ているもので、当合唱団では、来たる 2016 年 12 月の第 114 定期演奏会 [p. 3 に予告] にとり上げられるのが、4 回目にあたる。

- 1) 1970 年、第 20 回定演、指揮・小林道夫
- 2) 1976 年、第 37 回定演、指揮・堤俊作
- 3) 2001 年、第 89 回定演、指揮・大村恵美子
- 4) 2016 年、第 114 回定演、指揮・大村恵美子

もっと頻繁に演奏したい気持ちは、いつもあったのだが、第 45 定演 (1979 年) から常任指揮者となった筆者 (大村恵美子) にとっても、やっと 2 回目ということで、それだけに久しぶりの演奏がとてもうれしい。このカンタータに限らず、どの作品も、バッハのカンタータは、心の奥からつき上げられて、さあ演奏しようとして取り出されると、まるでそれが偶然ではなく、その時の世界情勢にまことにふさわしいテーマが扱われているものだったと気づかされることが多い。

いまこの時期に、私たちに向かって「目覚めよ」と呼びかけられると、ハッとして、そうだ、自分の責任に気づいて、行動を起こさなければ、と、誰しも気を引き立てられるような思いをするだろう。

このテキストは、マタイ福音書 25 章 1 節から 13 節の、真夜中に主を迎えようとする 10 人の乙女の話から成り立っている。聖書の 3 つの共観福音書のうち、いちばん早く出来たのがマルコ福音書。その次に出来たのがマタイ福音書で、これは原始キリスト教の教会成立時、その中にもまだいろいろな立場の信者が混在しており、そこを、何とかまとめた教会意識につくり上げたいという、編著者マタイの方向づけによって書き上げられたものと言う。

日本の聖書学者のうち、私の若い頃からの友人であり、親しかった田川建三氏が、長じて顕著な個性をもつ聖書研究者となった。はじめの頃は、飛び抜けて異質な、いわば左翼的な注意人物のように評されるふしもあったようだが、今や学界でも尊敬され、広く参考に値する学者として通用するようになったようである。1968 年の『原始キリスト教史の一面』以来、多くの

著作が読まれて来て、その方面にうとい私も、次々に読んで、彼の社会的成功を信じられるようになった。

この「10 人の乙女の話」を考えるにあたって、田川氏著『宗教とは何か〈下〉 — マタイ福音書によせて』 (改訂増補版 2006 年 7 月 21 日) をとり出して見ようと思ったが、疑問に思う人々が、どの位居られるのかは、わからない。上掲書、洋泉社 MC 新書のカヴァーには、「本来のイエスの言葉を実生活から遊離したマタイ教団が精神主義的に改作し、実践の観念論をふりまわすことになった。実証的に緻密な論証を重ねて、護教論的「定説」を覆す、田川マタイ論の現代的達成点」と記されていて、このようなマタイ福音書観にもとづいて、10 人の乙女の譬えも考えられている (p. 190)。



■ ストラズブル大聖堂の「愚かな乙女たち」像。手にリンゴを持った「誘惑者」の背中に蛇や蛙がひそんでいる (左端)。p. 2 に全体像。

「25：1-13, 10人の乙女の譬え。終末の到来を待っている教会、ないし教会の信者たちが、10人の乙女に譬えられる。そのうち5人は十分な準備をもって待っていたので、キリストに迎え入れられる。残りの5人は準備のない愚かな者たちであって、戸の外に締め出されてしまう。この愚かな5人の乙女もキリスト教徒の比喩であることは、彼女たちが、「主よ、主よ」とキリストにむかって叫ぶ者である(12節)ということによって、明白である。それに対して、再臨のキリストは「お前たちのことなど知らない」と、すげなく縁を切る。いくらキリスト信仰だけは熱心かつ忠実に持っていて、「主よ、主よ」ともっともらしく祈り、叫んでも駄目なので、そういう者たちに対しては、再臨のキリストは、お前たちのことなんぞ知らないよ、と冷たくあしらうだろう、という主題は、マタイの好む主題で、何度もくり返される。」

私が留学した都市ストラズブルの、有名なカテドラル西壁のファサードを飾る乙女像(前ページ図、内「愚かな乙女たち」部分)は、これまた世界的に親しまれている、すらりとした美しいゴシック式彫像で、私の脳裏に焼きついており、合唱団の第1回、第5回のヨーロッパ巡演旅行でも、みんなで立ち寄って見て来た。

キリスト教芸術には、美しく心を奪うようなものが多く、この彫像群もその一つの代表例だが、私にとっては、心を惹きつけられると同時に、必ずその解釈に、大きな葛藤が生じるものもまた多いのが事実だった。聖書学が、20世紀以来長足の進歩を遂げたらしく、田川氏も、ドイツの並み居る新約学者たちに学んでは、それらを乗り越えて、独自の境地を開いて来られたらしい。

彼の説では、マタイは、イエス自身の言葉につけ加える特徴的な編集句で、その当時の、混合体としての教会意識を典型的に示しているが、それが「外の暗闇に放り出される」や「そこでは、嘆き歯がみすることがあろう」などである。花婿たるイエスが夜中に現れるのを、5人の賢い乙女は灯の準備を整えて待ち、他の5人の愚かな乙女は、眠りこけていて灯の用意がなく、賢い乙女に「油を分けて。私の灯はもう消えそうだから」と泣きつくと、相手は、「分けるほどはないから、自分の分は外で買ってよ」と突き放す。

「愚かな乙女たちが買いに行っている間に、花婿が到着して、用意のできている5人は、花婿と一緒に婚宴の席に入り、戸が閉められた。その後で、ほかの乙女たちも来て、『御主人様、御主人様、あけてください』と言った。しかし主人は、『はっきり言うておく。わたしはお前たちを知らない』と答えた。だから、目を覚ましていなさい。あなたがたは、その日、その時を知らないのだから」(マタイ 25：10-13)。これが、天の国の譬えだというのだ。

あれ一、花婿(イエス)も、半数の乙女たちも、ずいぶん冷たいなあ？！



■「10人の乙女像」(ストラズブル大聖堂)。「愚かな乙女たち」(左側)と「賢い乙女たち」。中央奥のキリストが賢い乙女たちを右手で指さし、5人の乙女たち(右端の2人も含む)はランプを掲げている。

仏教でも、よく地獄、極楽の教えを聞かされて、ダメな人間は、ひどい目に会うのだよ、と脅かされて、子どもは育つ。キリスト教は、愛の宗教だと言われているのに、やっぱりこわいのは同じか？—

田川氏によれば、マタイ福音書では、次の2ヵ所も典型的なところだという。

マタイ 7：15-23「偽預言者を警戒しなさい。……あなたがたは、その実で彼らを見分ける。……わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者が皆、天の国に入るわけではない。……かの日には、大勢の者がわたしに、『わたしたちは御名によって……いろいろ行なった

— 第113回定期演奏会 ご案内 —

2016年5月28日(土)、午後2時開演
府中の森芸術劇場ウィーンホール

- ・カンタータ第148番《み名の栄光を讃えよ》
- ・カンタータ第40番《地に来ませり 神のみ子》
- ・カンタータ第16番《主 ほめ歌わん》
- ・カンタータ第192番《ああ感謝せん 神に》

[アルト] 佐々木まり子

[テノール] 鏡 貴之

[バス] 山本悠尋

[オーケストラ] 東京カンタータ室内管弦楽団

[オルガン] 草間美也子

[指揮/オーボエ] 辻 功 (BWV16)

[指揮・訳詞] 大村恵美子 (BWV148、40、192)

- ・チケット：前売り 3500円 (全席自由 500席)
- ・お申込み/お問合せ：東京バッハ合唱団事務局
(下記のいずれかでお申し込みください。振替用紙同封にて、チケットを郵送いたします。後日、お近くの郵便局よりお振込みください)

●電話：03-3290-5731 ●FAX：03-3290-5732

●メール：office@bachchor-tokyo.jp

●HPお問合せ窓口：http://bachchor-tokyo.jp/

後援会員・団友の皆さま

上記公演のご招待状を、前号3月号月報に同封してお送りしました。お仲間等お誘い合わせのうえ、ご来場いただけますよう、重ねてご案内いたします。

ではありませんか』と言うであろう。そのとき、わたしはきっぱりとこう言おう。『あなたたちのことは全然知らない。不法を働く者ども、わたしから離れ去れ』
マタイ 25:31-46「……王は右側にいる人たちに言う。……『はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』それから、王は左側にいる人たちにも言う。『呪われた者ども、わたしから離れ去り、悪魔とその手下のために用意してある永遠の火に入れ。……この最も小さい者の一人にしなかったのは、わたしにしてくれなかったことなのである。』こうして、この者どもは永遠の罰を受け、正しい人たちは永遠の命にあずかるのである。」愛とは甘いものではないことは覚悟しているが、でもこんなにこわいとは……。

さきに月報第 644 号 (2016 年 2 月号) で、私は宮田光雄氏『カール・バルト』の紹介をしたが、その中でも、バルトは晩年になるにしたがって、神の《然り》に比重をおき、〈神が人間に語りかけ、人間を契約可能なパートナーとすることによって、はじめて人間は主体となる〉ことが注意された。善い者にも悪い者にも等しく光を注ぐ太陽のように、人間すべてを救うのが神だとし、終末の厳しい審判で、ダメなほうをふるい落とすのが人間創造の本意ではないことを強調したとされる。

私 (大村) も、最後の審きで落とされる恐怖よりも、「アバ父」(お父ちゃん) の温かさに全員が生きかえらされることを、宗教と信ずるものである。ではいったい、マタイの強調点である、一方は入れられ、一方はシャットアウトされるという図式は、何なのだろうか。私自身の理解をうち明けよう。私は、全人類の数値的割合に関する問題とはとらない。それよりも、私自

身がこの世にあって、こう行動すれば、神とも他人とも一緒になれて幸福、その反対の行動に出るならば、神と他人と通じることなく、孤立し、不幸になる。自他ともに生かすことから幸福状態が生じ、自他ともに殺すことから不幸状態に陥る。それはどんな人にも同じことで、どんなに順調に歩いてこられた人でも、切羽詰った瞬間には、とんでもない行動にさえ走って破局を迎えることにもなる。だから、日々の努力としては、自他ともに、極限状態に直面することのないように互いに助け合う、その一事に尽きる。偉大な俳優、高倉健も、やくざ・極北・人間関係の板挟み、等々、極限におかれた善人の不幸な役ばかり、映画会社であてがわれて、決意のうえ身を引き、独立後は、一般庶民の役で生き返ってさらなる高い芸域に達して生涯を終えた。私は彼のために、同慶にたえないでいる。

これまで書いてきたのは、宗教問題の高尚さを、世俗の安っぽさに引きずり下ろしたことに他ならないかも知れない。でも、私は、あの世での恐怖で日常生活を律されるよりは、「イスラム国」に逃げこむ若者も、病気のウィールスや無知の深淵に喘ぐストリートチルドレンも、人間すべてが、この世で笑えるようになってほしいと切望するばかりである。それこそが《天の国》といえるものだと信じる。そんな子どもらしさで、またカンタータ 140 番に向かいつつある。皆さんはいかがでしょう？

〔駄足 2 点。日本人に向かって叫びたいこと。① 飢え死にする人間が数知れないのに、あちこちで「大食い競争」「美食披露」をやって、うつつを抜かすな。破廉恥まる出し！ ② 人を殺す軍需産業で大儲けをして国の破産を救おうとするな。武器製造会社は残らず潰してからでなければ、平和問題を国際会議に出て喋る資格なし。これは世界の全国にも叫びたい。〕

— 第 114 回定期演奏会 予告 —

2016 年 12 月 3 日 (土)、午後 2 時開演
府中の森芸術劇場ウィーンホール

- ・カンタータ第 14 番《かたえに 主いませずば》
- ・『アンナ・マクダレーナ・バッハの音楽帳』より、10 の声楽作品 (BWV 508-518)
- ・カンタータ第 82 番《われ 足れり》
- ・カンタータ第 140 番《目覚めよと呼ばわる 物見の声高し》

[ソプラノ] 光野孝子
[テノール] 鏡 貴之
[バス] 山本悠尋
[オーケストラ] 東京カンタータ室内管弦楽団
[オルガン] 草間美也子
[指揮・訳詞] 大村恵美子

— 団員募集 —

上記公演の新規出演団員を募集します。練習開始は、第 113 回定演 (5/28) 終了後から。5/30 (月) 目白聖公会 18 時 30 分、6/4 (土) 荻窪教会 15 時 30 分より。問合せ=東京バッハ合唱団事務局 (本紙 p.1 のタイトル囲み内参照)

お・た・よ・り

西村 清志 様 (後援会員)

私も間もなく 76 歳になります。合唱団に在籍した期間は長くはありませんでしたが、そこでバッハに出会えたことは本当に大きなことだったと思っています。

ご紹介いただきました『ブッダが説いたこと』の感想です。今まで日本で定着して来たブッダ像とはかなり異なっていて、「ブッダは科学的な医者」という表現もありましたが、まさに精神科医が脳生理学者のような視点から人間を分析した人物のように感じました。今日では自我の分析といえ、脳の分析を意味するようですが、脳は全体がネットワークになって機能しているらしいですから、ブッダの「自我はなく、すべては相対的である」という基本認識には納得できます。ただ、ニルヴァーナ (悟りの境地?) と心的エネルギー (世界で最も大きな力で死によっても停まらない)

についてはよく分かりませんでした。これは客観的には認識できない部分だと思います。いずれにせよ、人間の動物的側面を刺激する要素（食・生殖・支配・死への恐怖、など）を的確に制御し、“ことば”を使用する人類だけに存在する眞・善・美を求める“こころ”にもとづいて行動することが、人間らしく生きる基本ではないかと改めて思いました。

吉田 佐貴子 様（後援会員）

冬に戻ったようなお寒い日が続きましたがお元気で
お過ごしでいらっしゃいますか。お互いに誕生日が過ぎて八十五になりましたね。ますますのご活躍、陰ながら敬服いたして居ります。

先日お送りいただいたお知らせの中の「追悼の心」
[月報3月号・第645号所載]で、戸田敏子様と中山靖子様のお二方と少しご縁が有りましてペンをとりました。戸田先生は、お母様とお妹様（画家）が私の父のところに長い間、書道を習いにいらしてました。娘時代お母様に大変可愛がって頂き、戸田先生にはお妹様の画展の時お目にかかったりして居りました。

中山靖子先生は、姉と第五（現・都立富士高校）で同級生、大変仲良くしていたらしく、先生は音楽、姉は文学と道は違いましたが、ずっと仲良く（それぞれに忙しく、会う機会は少なかったと思いますが）お互いに頑張っていて励まし合っていたようです。演奏会に連れていってもらった覚えがあります。

偶然、お二人が貴女のお仕事に深いご縁があったのが、本当にびっくりやら嬉しいことでございます。姉は十一年前に亡くなりました。独身で通しましたので、ずっと私が世話をし一緒に過ごしました。

私どもも先が見える年齢になりましたが、立派なお仕事をなさっていらっしゃる貴女には、どうぞ長く続けて頂きたいと存じます。ご無理なさらぬようお大切にお過ごしくださいます。

春の夢のなかの、合唱団会館！

大村 恵美子（主宰者）

私は、ほとんど毎日のように夢を見ます（明け方ごろ）が、2016年3月16日に見た夢は、合唱団と共に生きてきた私が、こんなふうな居場所ができれば、さぞかし楽しかったらうけれど、私の生存中に成就することはあり得ないでしょう、と、せめて夢の中に残してみたい思いがあったのだと思います。目が覚めてあと、思い返してみても、桜上水の森井家に2階を増築したときの設計図を、より大きめにしてみた感じのものと、第5回の海外演奏旅行のとき、フライブルクで案内された、ボイアーレ先生の合唱団所有の建物と、この2つを合わせた思い出の反映のようだと気づきま

した。

今後、どれだけ残されているか不明の私の生涯の中で、とてつもない大金が舞いこんできて、現実どこかに出現するか、あるいは、私のあとも合唱団は生き続けて、どれだけかの努力のあと、これを参考にしながら、皆さんの手で作り出せるか——この、寝ていた間の夢が、多数の方々による白昼の大きな夢となるか——何ともわかりませんが、とにかく、まずは、楽しくも懐かしい話題になるかもしれないと考え、ここにお預けすることにします。

<1階>

- 玄関……間口を広く、なるべく段差なく平らに。
- 広間（洋室）……パーティー・食事用。いす・長いす・テーブル、数セット。（付 台所・トイレ）
- 休憩室（広い和室）……待機・面会・協働作業用。中央に大きな長方形の掘りごたつ。壁ぎわに軽い籐製の和室用安楽椅子、多数。
- 個室（複数の和・洋室）……学習・作業・練習用。
- 寝室（2,3の和・洋室）……居住者の家族用。（付 台所・トイレ）

<2階>

- 全体ホール（洋室）……リハーサル・小演奏会用。中央にグランドピアノ（対面して2台）、器楽合奏スペース。
- ホール脇……プレーヤー（CD、DVDその他）、いす多数、保管庫・書棚（楽譜・書籍・録音盤・アルバム etc.）

以上

夏の行事予定

◆創立54周年特別演奏会と記念懇親会

日時=7月2日(土)14時、会場=荻窪教会

- ・演奏会（器楽アンサンブルとオルガンと合唱）

Vn 中川典子、VC 木島洋一郎、Org 石川優歌

BWV 81 《主イエス眠り いかにもすべきわが望み》

BWV 148 《み名の栄光を讃えよ》

BWV 508 アリア 《かたえに主いませば》…*

BWV 140 《目覚めよと呼ばわる 物見の声高し》

入場無料

- ・創立記念懇親会（同会場、公演後）

◆長野県野尻湖、ワークショップとコンサート

- ・8月4日(木)ー7日(日)合宿

- ・8月5日(金)、ワークショップ

会場=野尻湖公民館、18時30分より

（長野県信濃町のみなさんとのコラボ）

（素材：BWV 147/10）

- ・8月6日(土)16時、第41回野尻湖コンサート

会場=野尻湖国際村・集会場（神山教会）

Br 山本悠尋、Org 石川優歌

BWV 81、BWV 148、BWV 140（上記7/2曲目）

BWV 515 アリア 《気晴らしにタバコを詰め》…**

*、**…いずれも『アンナ・マクダレーナ・バッハの音楽帳』より（日本語演奏、初演）。